

学年	教科等	主題名	児童	場所	指導者
4年	道徳科	「毎日の積み重ね」 A-(5)希望と勇氣、努力と強い意思	4年2組27名	4年2組 教室	日下 裕太

育てたい資質・能力

◎道徳において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え(道徳的実践意欲と態度)

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

自分で決めたことに対してひたむきに努力する姿や目標を達成した気持ちを考えさせ、自分でやろう決めたことは粘り強くやり遂げようとする態度を養う

1 主題について**(1)ねらいとする内容項目について**

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、中学年児童の段階における「努力と強い意思」の指導の要点を次のように示している。

この段階においては、勉強や運動だけでなく、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる。自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する構えも身に付いていく。その反面、つらいことや、苦しいことがあると、途中であきらめてしまうこともある。そこで、自分がやらなければならないことだけではなく、自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。

指導に当たっては、目標を立て、あきらめずに粘り強くやりぬく強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願い、努力する姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、周りの人の励ましや賞賛があることに気付き、粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。

本時では、自分で決めたことに対してひたむきに追及し続ける登場人物の姿について考えさせ、つらいことや苦しいことがあっても、弱い自分に負けずに、目標に向かって粘り強く努力しようという態度を育みたい。

(2)児童の実態

本学級では、毎日宿題に取り組んだり、係の仕事を忘れずに行ったりするなど、やらなければならないことはしっかりと行うことができる児童が多い。

一方で、自分で決めた目標や計画に対して、強い意志をもって継続的に取り組むことは十分とは言えない。学期始めに立てた個人目標や「大有っ子の手引き」の生活時間、家庭学習の取組など、途中であきらめてしまったり、目標を意識できずに終わってしまったりしている。そこで、本時では、自分自身を高めようという意欲をもって目標に向けて粘り強く取り組むという忍耐力を養うことが、将来の夢や希望を実現するために大切だということに気付かせたい。そして、目標に向かって継続的に努力しようという態度を育みたい。

(3) 指導の手立て

本時では、「イモリが元気だと雨がふる」という資料を扱う。「天気予報に興味をもった山田君が、6歳から4年生までの長年にわたり、的中率の高い天気予報ができるように雲やカエル、イモリと天気の関係などについて、くじけずに研究を続ける。」という内容である。この資料を読んで、児童は忙しい日常の中でも毎日、ラジオ番組「気象通ほう」を聞いて、自分で天気図を千枚以上かき続けた主人公の粘り強さにまず着目すると考えられる。この点において、自分でやろうと決めたことを粘り強く最後までやり遂げる態度を育てるには適切な資料であると考えた。一方で3年生の時に知った「カエルが鳴くと雨になる」ということわざをきっかけに、イモリの動きを調べれば的中率が上がるだろうという自分なりの仮説を立て、それを検証するための観察を続け、「イモリがよく動くと前線が近づいて雨がふり、かくれると前線がはなれて晴れる」という発見をする姿に、A(6)「真理の探究」の内容に着目する児童がいることも予想される。

そこで指導に当たっては、主人公が続けてきた努力を継続するか、止めてしまおうか迷っている葛藤場面を中心に扱うことで、「努力と強い意思」に児童の思考を焦点化することができるようにする。

2 本時の学習

(1) 本時のねらい

自分で決めたことに対してひたむきに努力する姿や目標を達成した気持ちを考えさせ、自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようとする態度を養う。

(2) 本時の展開

***一単位時間レベルB-②【対話重視】**

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価(評価方法)
導入 5分	1 ことわざ「三日坊主」の意味やそれに関わる経験について考える。 ・すぐに諦めてしまうこと。 ・3日しか続かないこと。 ・1学期の目標。 ・毎日の家の手伝い。	全体	□本時のねらいに興味・関心をもたせるために「三日坊主」「継続は力なり」の二つのことわざを提示する。
	2 ことわざ「継続は力なり」の意味やそれに関わる経験について考える。 ・続けると力がつく。 ・係の仕事。 ・練習してプールの試験に受かった。	全体	
	3 学習テーマを把握する。		
くじけず粘り強く取り組むと			
	4 資料「イモリが元気だと雨がふる」の読み聞かせを聞く。		□挿絵やせりふを提示しながら読み聞かせをし、考えさせたい場面を印象付けるようにする。

展開 25分	5 山田君は小さいころからどのようなことを頑張ってきたのかを考える。 ・空の様子と天気の状態。 ・ラジオを聞いて、天気図をかくこと。 ・カエルの動きと天気の関係を調べること。 ・イモリの動きと天気の関係を調べること。	全体	
	6 お母さんに「やめてもいいのよ。」と言われた時の、山田君の気持ちについて考え、やめたい理由と続けたい理由についてそれぞれ考える。 ・今まで頑張ってきたんだから続けよう。 ・お母さんも手伝ってくれるのだから頑張ろう。 ・大変だからやめたい。 ・下校時間も遅くなって宿題も忙しいからもう続けられない。	全体	* やめたい理由と続けたい理由の両方を心情図（ハート型の図）を使って考えさせる。また、これを板書上で整理することで、児童に主人公の気持ちの葛藤を視覚的に捉えさせ、思考を活性化させる。
	7 イモリと天気の関係を発見した時の山田くんの気持ちを考える。 ・やったあ。 ・あの時、やめないでよかった。 ・新しいことが分かってうれしい。	全体	
	8 山田くんのように取り組んだらどんなよいことがあるかを考え、本時のまとめをする。		
改善のポイント 心情図を作成する際には、ハートを真ん中で二つに分けるのではなく、どちらの気持ちが多いかでハートを区切らせるようにする。			
やり遂げた喜び、達成感、困難への強い心、自分を高める喜びを味わうことができる			
	10 これまでの自分の生活を想起し、ペアで交流する。 ・マラソンの練習を頑張ってよい順位になった。 ・水泳の練習を続けて平泳ぎができるようになった。	ペア ↓ 全体	<input type="checkbox"/> 道徳ノートに記入させてから、ペア、グループで交流させるようにする。
終末 15分	11 ことわざ「玉磨かざれば光なし」の話を聞く。こつこつと努力を続けている事例を学級の具体例の中から聞く。 12 学習を振り返り、道徳ノートに感想を書く。 ・自分も何か続けてみようかな。 ・ぼくも山田君のようにになりたいな。 ・今頑張っている〇〇をこれからも頑張りたい。		<input type="checkbox"/> 自分で決めた目標について、こつこつと努力を続けている事例（生活リズムチェックシート・家庭学習、学級園・花壇の水遣りなど）を集めておき、実践への意欲化の段階で紹介する。

3 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

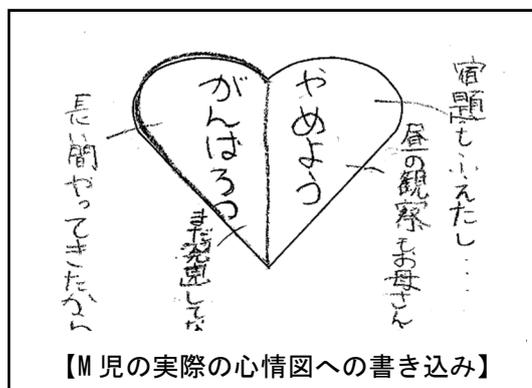
(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-②（対話重視）】

～登場人物の気持ちの葛藤について捉えさせ、ひたむきに努力することの大切さについてとその難しさについての考えを深めるために、心情図（ハート型の図）を用いる～

自分で決めた目標に向かってひたむきに努力することの大切さとそれを行うことの難しさの両面について捉えさせるために、一人一人が自分の考えをもち、「対話」を通して友達の考えと自分の考えを比較しながら考えを深めることが効果的だと考えた。そのための手立てとして心情図（ハート型の図）を用いて視覚的に自分の考えを整理できるように工夫した。

具体的には、主人公がこれまで続けてきた毎日の観察することについて、やめたいと考えた理由と続けたいと考えた理由の両方を個人でハート型の心情図に書き込ませた。その後、全体交流を行い、児童から出された考えを板書にも位置付け、主人公がどのような理由で葛藤しているのかについて視覚的に捉えられるようにした。



(2) 成果

○実際の授業の中では、心情図を用いたことにより、主人公の心の中で単に「続けたい」「もうやめたい」という二つの気持ちについてだけでなく、その二つの気持ちの裏にはある様々な理由について考えを深めることができた。

○個人で書いた心情図を隣の友達と交流したり、児童から出された意見を教師が板書上に位置付け学級全体で交流したりする中で対話を行った。これらの対話を通して、努力を続けることの大切さを理解はし

ていても、それを継続していくには困難を伴うという人間理解についても考えを深めることができ、有効であった。



(3) 改善

改善のポイント

心情図（ハート型の図）を書き込む際に、今回はハートをちょうど真ん中で二つに分け、右側に「やめようという気持ち」、左側に「続けようという気持ち」を書き込ませた。この他にハートを真ん中で半分に分けるのではなく、二つの気持ちのどちらが大きいかによって分ける場所を変えるという方法も考えられる。今回は、二つの気持ちの両方があり、その理由を考えさせることを大きなねらいとして半分に分けたが、どちらの気持ちが大きいかを考えることにより、心情を深く考えさせる場合は割合によって、分ける位置を変える方法もある。